

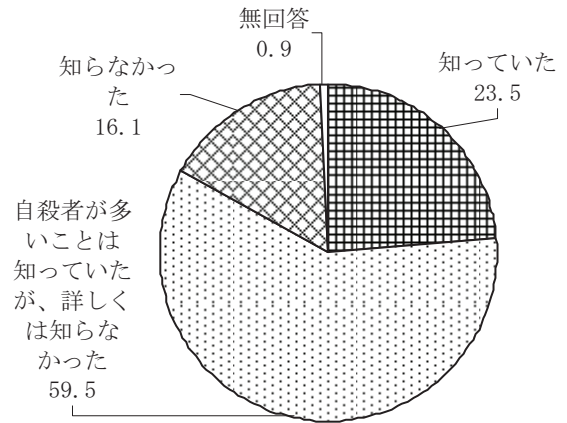
第3章 自殺対策について

1 自殺者数の認知度（問7）

神奈川県は平成10年以降毎年1,600人～1,800人前後を推移しており、平成21年は1,835人であったが、このように毎年多くの方が自殺で亡くなっていることを知っているか尋ねた。

「知っていた」（23.5%）は2割台で、「自殺者が多いことは知っていたが、詳しくは知らなかった」（59.5%）が6割となった。〔図表3-1〕

図表3-1 自殺者数の認知度（n=676）（%）



2 自殺やその対策についての意識（問8）

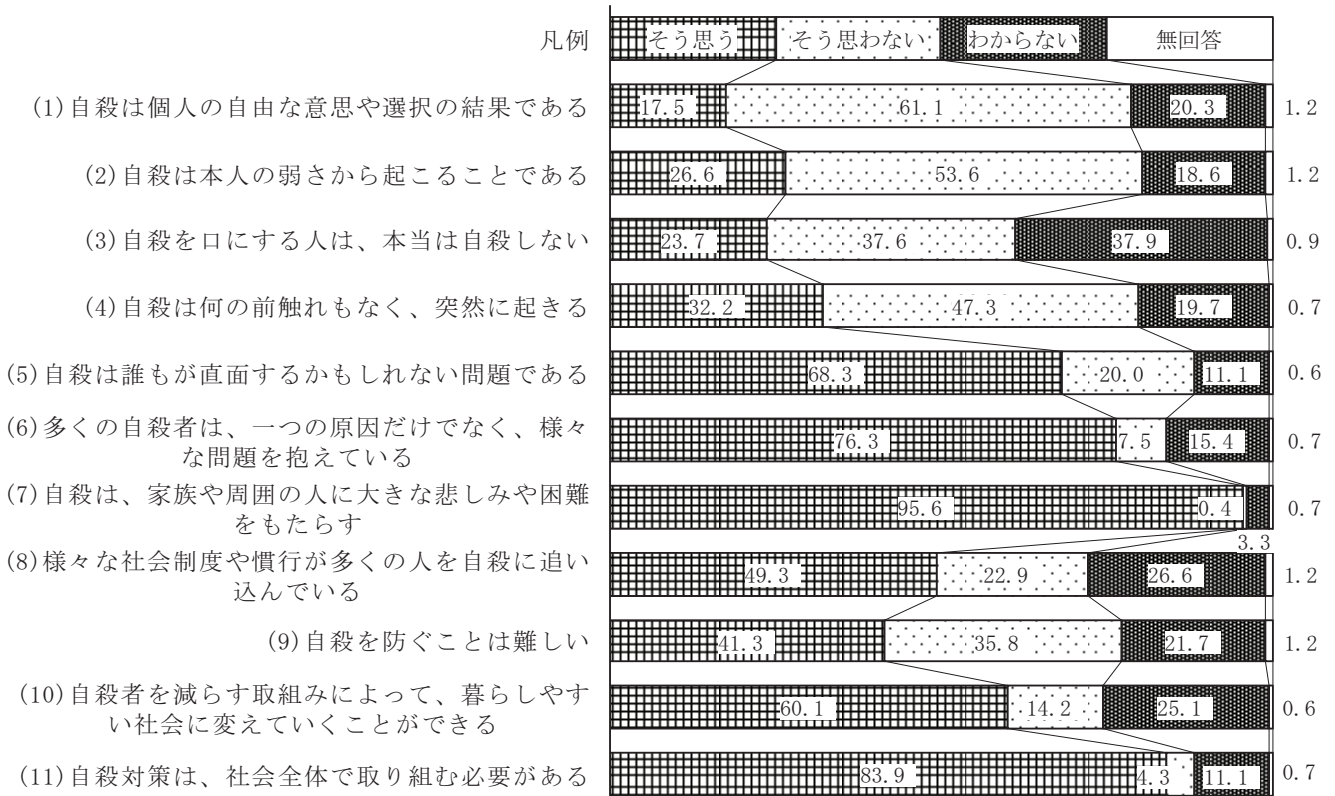
自殺やその対策について11項目を提示して、「そう思う」「そう思わない」「わからない」のいずれかで尋ねた。

「そう思う」は、「(7)自殺は、家族や周囲の人に大きな悲しみや困難をもたらす」（95.6%）が9割台で最も多く、「(11)自殺対策は、社会全体で取り組む必要がある」（83.9%）が8割台、「(6)多くの自殺者は、一つの原因だけでなく、様々な問題を抱えている」（76.3%）が7割台となり、「(5)自殺は誰もが直面するかもしれない問題である」（68.3%）が続いた。

一方、「そう思わない」は、「(1)自殺は個人の自由な意思や選択の結果である」（61.1%）が約6割となり、次いで「(2)自殺は本人の弱さから起こることである」（53.6%）が5割台となった。

〔図表3-2〕

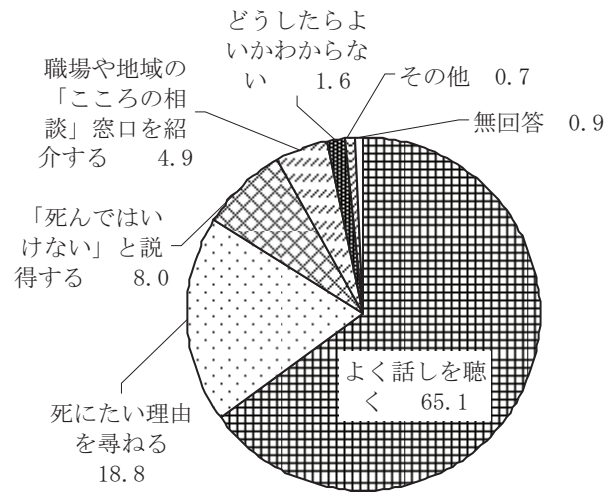
図表3-2 自殺やその対策についての意識（n=676）（%）



3 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応（問9）

身近な人から「死にたい」と打ち明けられたら、まずどのように対応するか尋ねたところ、「よく話を聴く」（65.1%）が6割台で最も多く、次いで「死にたい理由を尋ねる」（18.8%）が約2割であった。[図表 3-3]

図表 3-3 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応（n=676）（%）

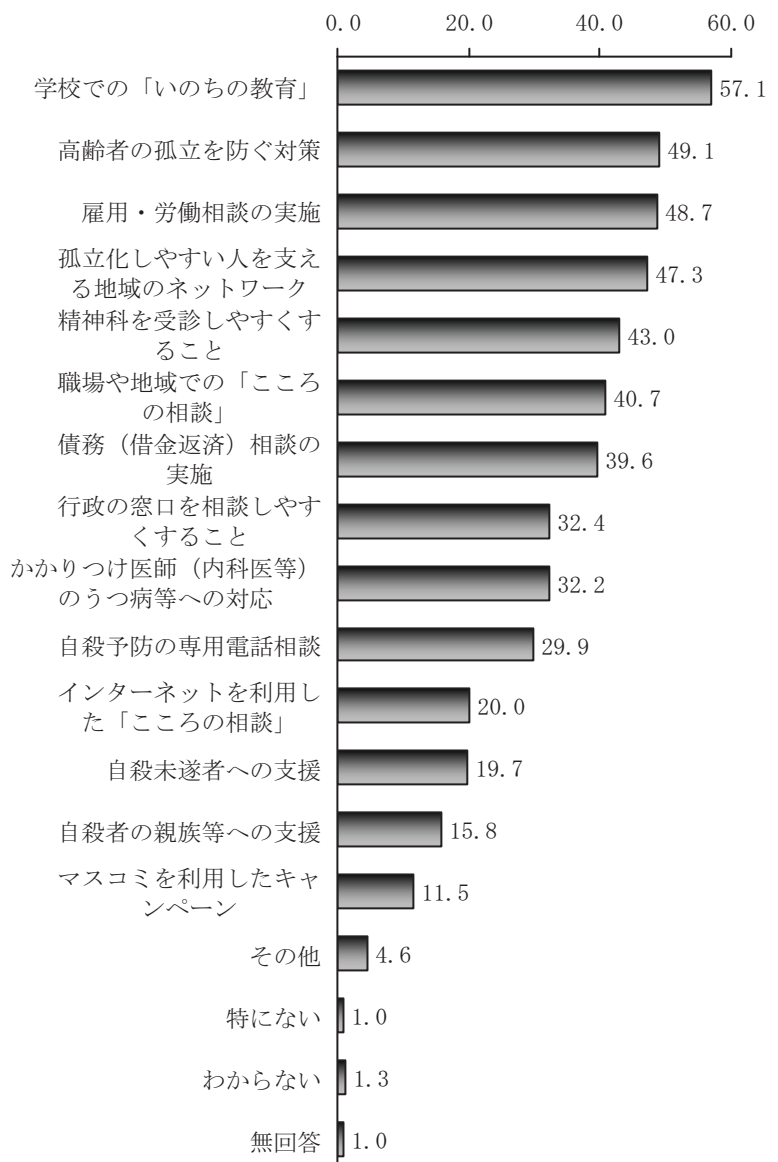


4 自殺対策として県などに充実させてもらいたいこと（問10）

自殺対策として、県などにどのようなことを充実させてもらいたいと思うか、複数回答で尋ねたところ、「学校での『いのちの教育』」（57.1%）が5割台で最も多く、「高齢者の孤立を防ぐ対策」（49.1%）、「雇用・労働相談の実施」（48.7%）、「孤立化しやすい人を支える地域のネットワーク」（47.3%）が続いた。

[図表 3-4]

図表 3-4 自殺対策として県などに充実させてもらいたいこと（複数回答、いくつでも）（n=676）（%）



5 悩みやストレス

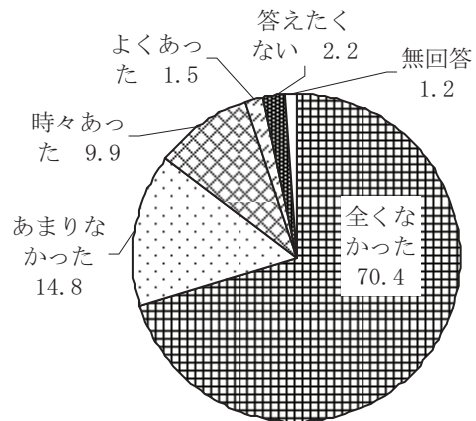
(1) 悩みやストレスの有無（問 11）

この1年間の間に「死にたい」と思うほどの悩みやストレスがあったか尋ねたところ、「全くなかった」（70.4%）が7割であった。

一方、「時々あった」（9.9%）と「よくあった」（1.5%）を合わせた《あった》（11.4%）は約1割であった。

[図表 3-5(1)]

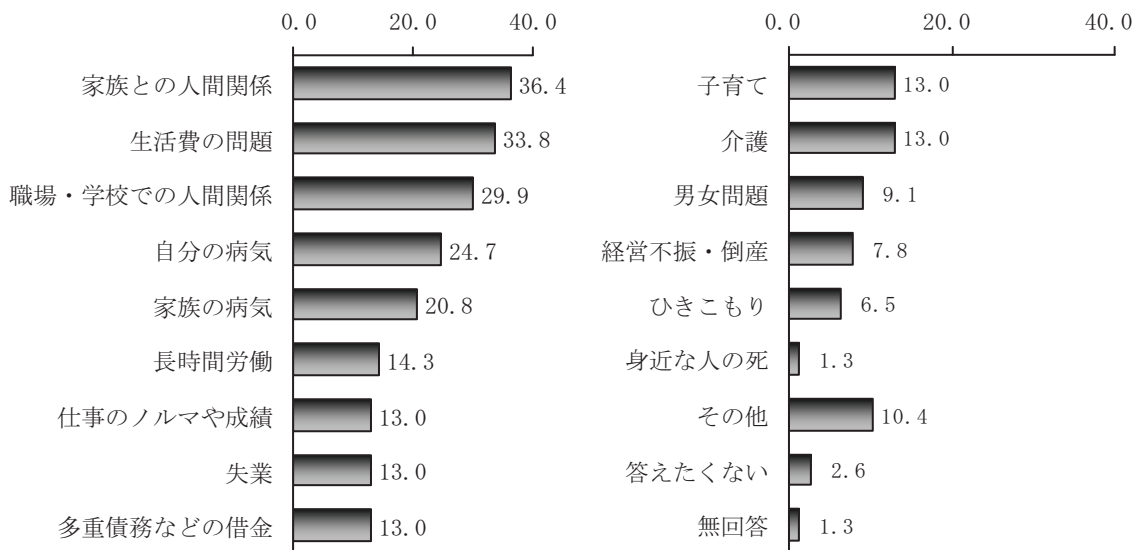
図表 3-5(1) 悩みやストレスの有無
(n=676) (%)



(2) 原因（問 11-1）

この1年間の間に「死にたい」と思うほどの悩みやストレスが《あった》と回答した77人に、その原因を複数回答で尋ねたところ、「家族との人間関係」（36.4%）、「生活費の問題」（33.8%）がともに3割台となり、「職場・学校での人間関係」（29.9%）が続いた。[図表 3-5(2)]

図表 3-5(2) 悩みやストレスの原因（複数回答、いくつでも） (n=77) (%)

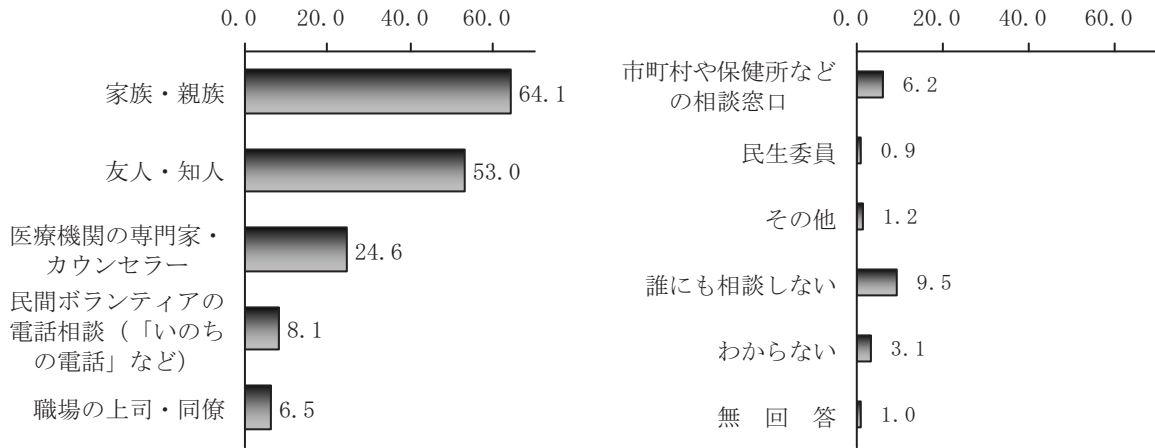


6 心の悩みの相談先（問 12）

心の悩みを相談するとしたら誰に相談するか、複数回答で尋ねたところ、「家族・親族」（64.1%）が6割台で最も多く、次いで「友人・知人」（53.0%）は5割台、「医療機関の専門家・カウンセラー」（24.6%）が2割台となった。

また、「誰にも相談しない」（9.5%）は1割であった。[図表 3-6]

図表 3-6 心の悩みの相談先（複数回答、いくつでも） (n=676) (%)



7 心の健康に関する相談窓口の認知度、利用状況・意向（問 13）

提示した2つの相談窓口のそれぞれについて、心の健康に関する相談ができることを知っていたか、また併せて、利用状況・意向について尋ねた。

「知っているし、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた《知っている》をみると、「保健福祉事務所（保健所・福祉保健センターなど）」（45.1%）は4割台で、「精神保健福祉センター（横浜市は『こころの健康相談センター』）」（34.0%）が3割台となった。

また、「知っているし、利用したことがある」と「知らなかったが、利用してみたい」を合わせた《利用した・してみたい》をみると、「保健福祉事務所（保健所・福祉保健センターなど）」（22.3%）、「精神保健福祉センター（横浜市は『こころの健康相談センター』）」（24.3%）はともに2割台であった。〔図表 3-7〕

図表 3-7 心の健康に関する相談窓口の認知度、利用状況・意向 (n=676) (%)

